

# ミチ 中今の徑を往く

—須坂の徑へ気付きを与える民家再生—

製糸業で栄えた過去と街の未来を創る子供達の存在を繋ぎ止め  
訪れる人々が須坂の街の魅力に触れ合う  
そんな中今の存在として位置付ける民家再生の提案



## 01. 須坂に残る面白い径

提案着想

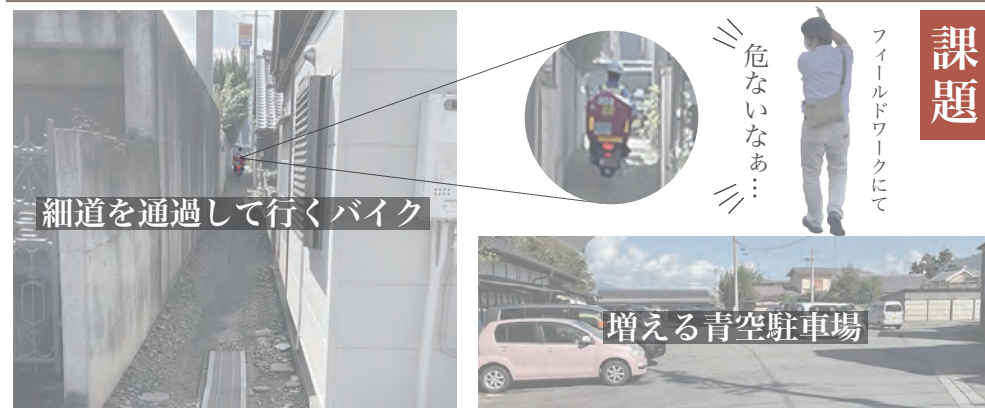


魅力

須坂の街を歩いていると、つい覗きたくなるような面白い細道や現在の敷地境界を自由に駆け巡る裏川用水の跡が点在している。そして今回再生の対象となる旧越家住宅にも裏川用水跡が敷地内外を通り抜けている。この道たちは須坂の歴史と強く紐づくものである。

## 02. 歩かなくなった須坂

提案背景



課題

「須坂の街は歩かなくなった」教授はそう言った。確かに歩いている人は非常に少ない印象で、本来人の為の細道でさえ、郵便のバイクが危なっかしく通り抜けていった。車社会の台頭で歩くことが減った現在、須坂の街は間違いなく歩くことに寛容ではなくなっている。

## 03. 径への気付きを与える

提案概要

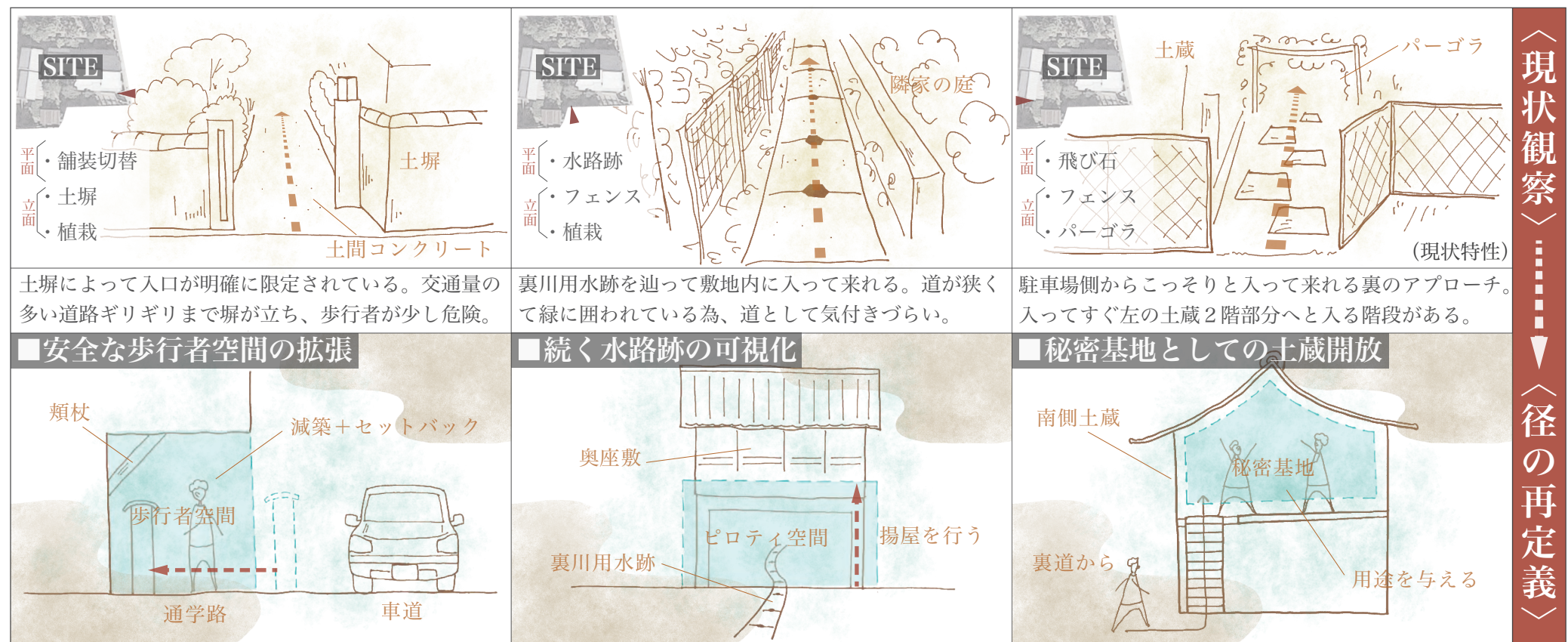
提案



本設計ではかつて製糸業で栄えた歴史を支え、敷地境界を自由に駆け巡る裏川用水の姿に、遊び心を持って径を開拓する子供達の姿を重ね、多様なミチの記憶と共に須坂の重要な歴史を継承する地域の子供達の居場所、中今の存在としての旧越家住宅の再編を試みる。そして径への気付きを与える事で、須坂の街を歩き楽しむきっかけとなる場を目指す。

## 04. 既存アプローチの観察と再定義

分析・提案



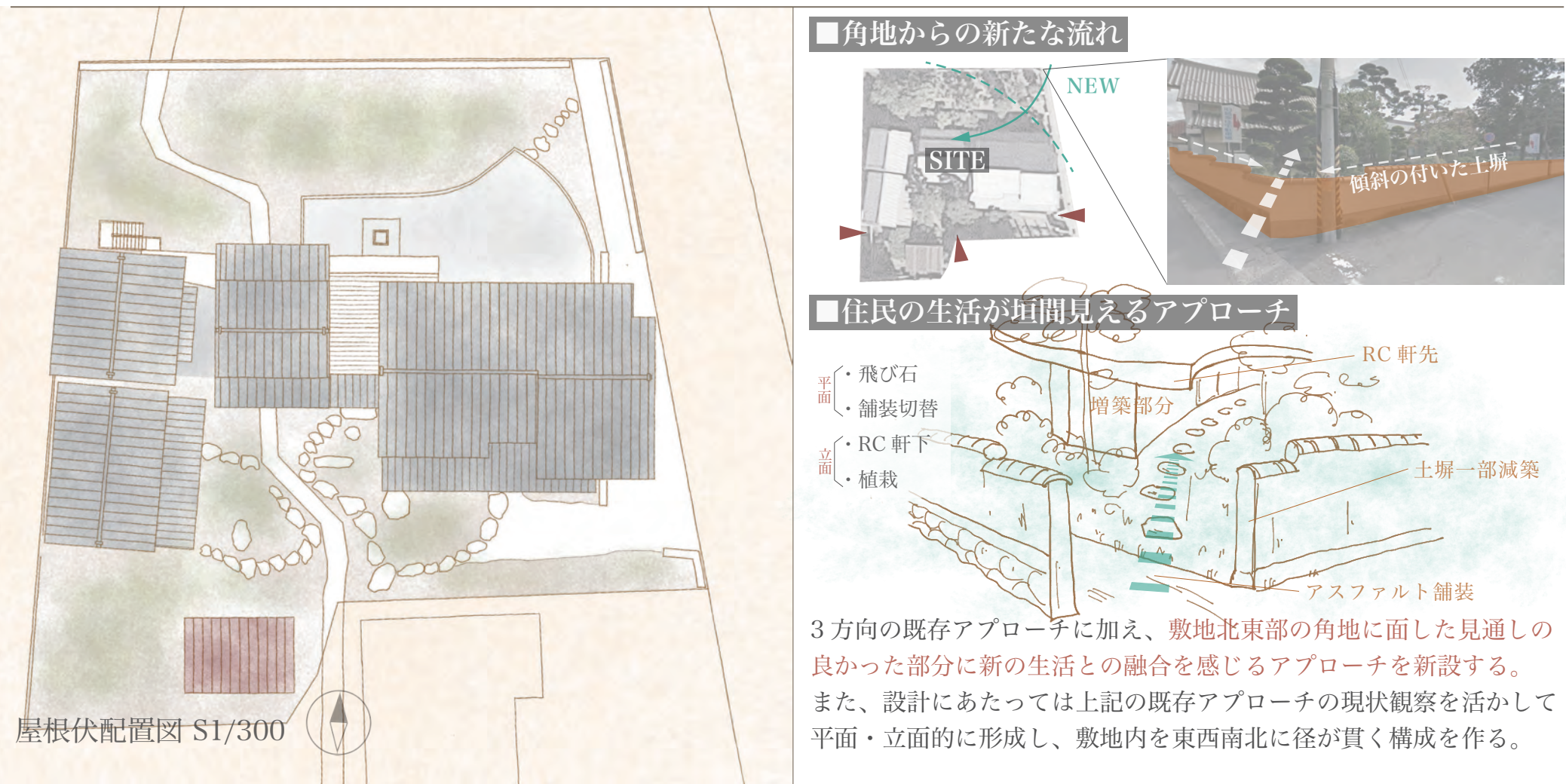
〈現状観察〉

〈径の再定義〉

提案において敷地内のみで完結させないため、敷地外からの既存アプローチ3ヶ所を観察することで現状の特性を読み取る。そしてそれらのアプローチに対して径への気付きを与えるように場の再定義を行なっていくことで、この場を訪れる人々が民家単体としての魅力だけに留まらず、須坂の街が持つ径の魅力や歴史にまでさらに視野を広げて経験する一助となるのではないかな。

## 05. 敷地に新たな基軸を描く

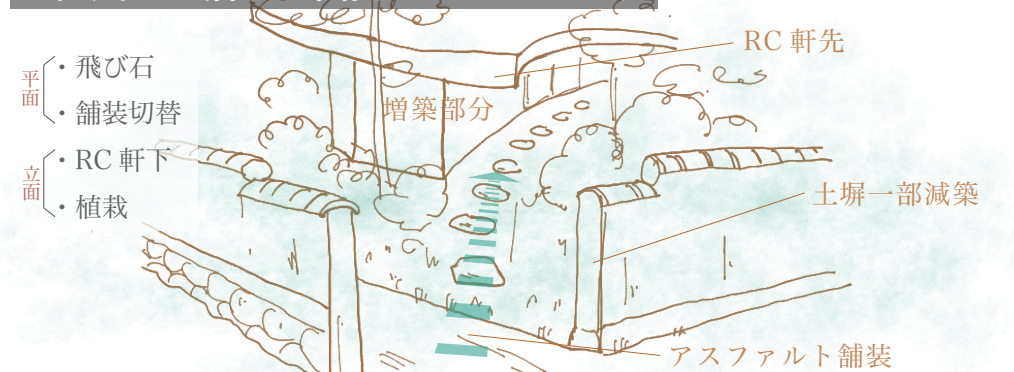
分析・提案



■角地からの新たな流れ



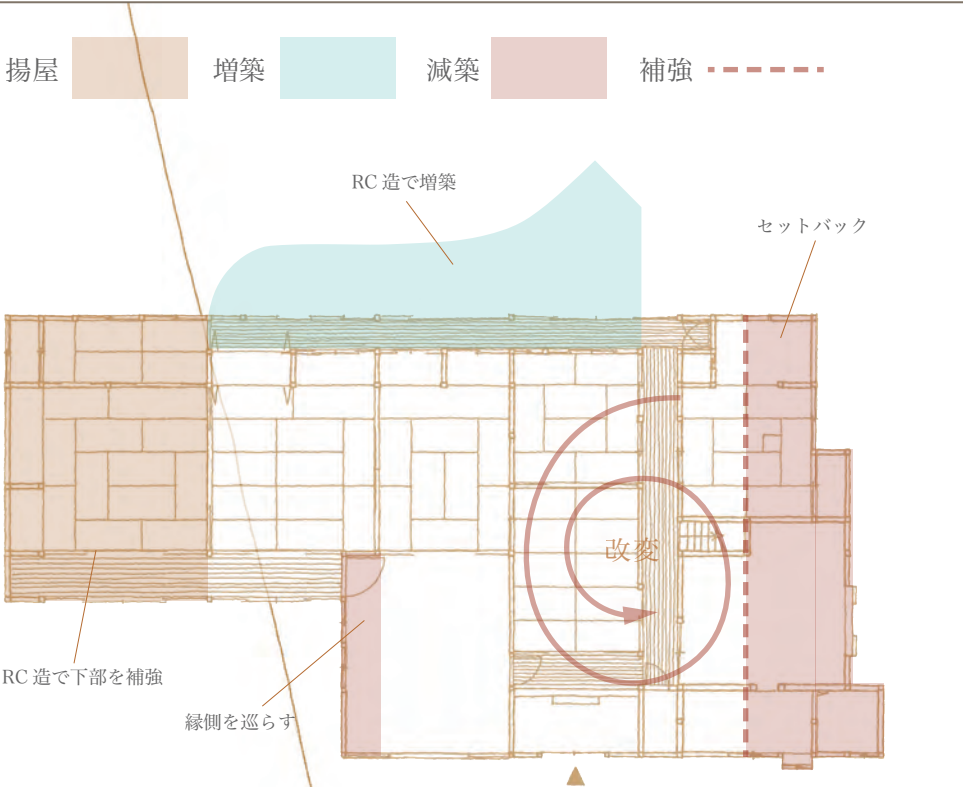
■住民の生活が垣間見えるアプローチ



3方向の既存アプローチに加え、敷地北東部の角地に面した見通しの良かった部分に新の生活との融合を感じるアプローチを新設する。また、設計にあたっては上記の既存アプローチの現状観察を活かして平面・立面的に形成し、敷地内を東西南北に径が貫く構成を作る。

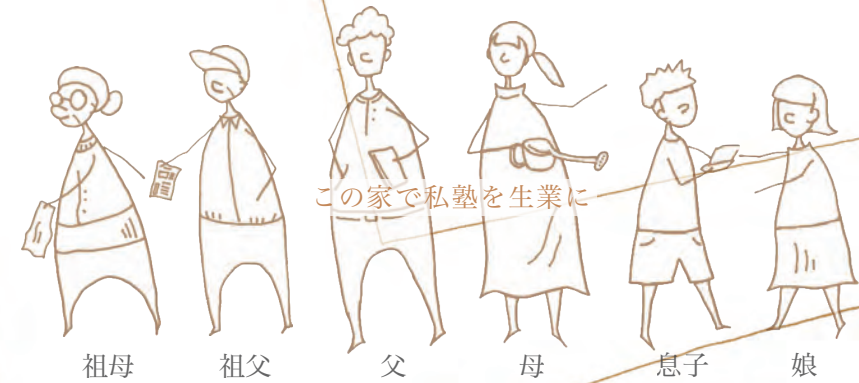


06. 寄り道できるような居場所性を付与する

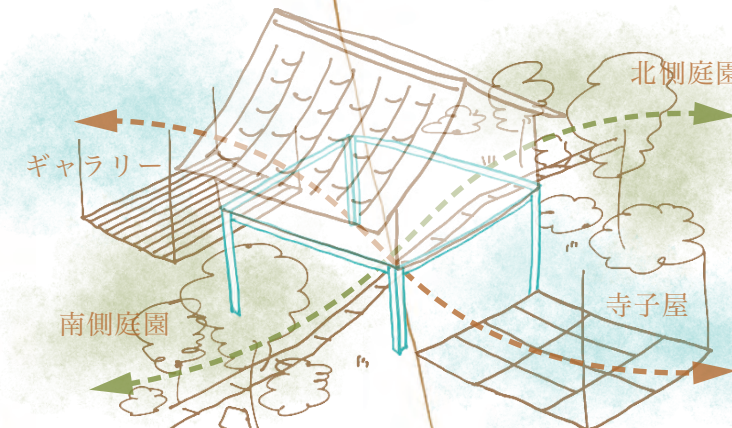


再生前 1 階平面図 S1/200

■新規住民の世帯構成

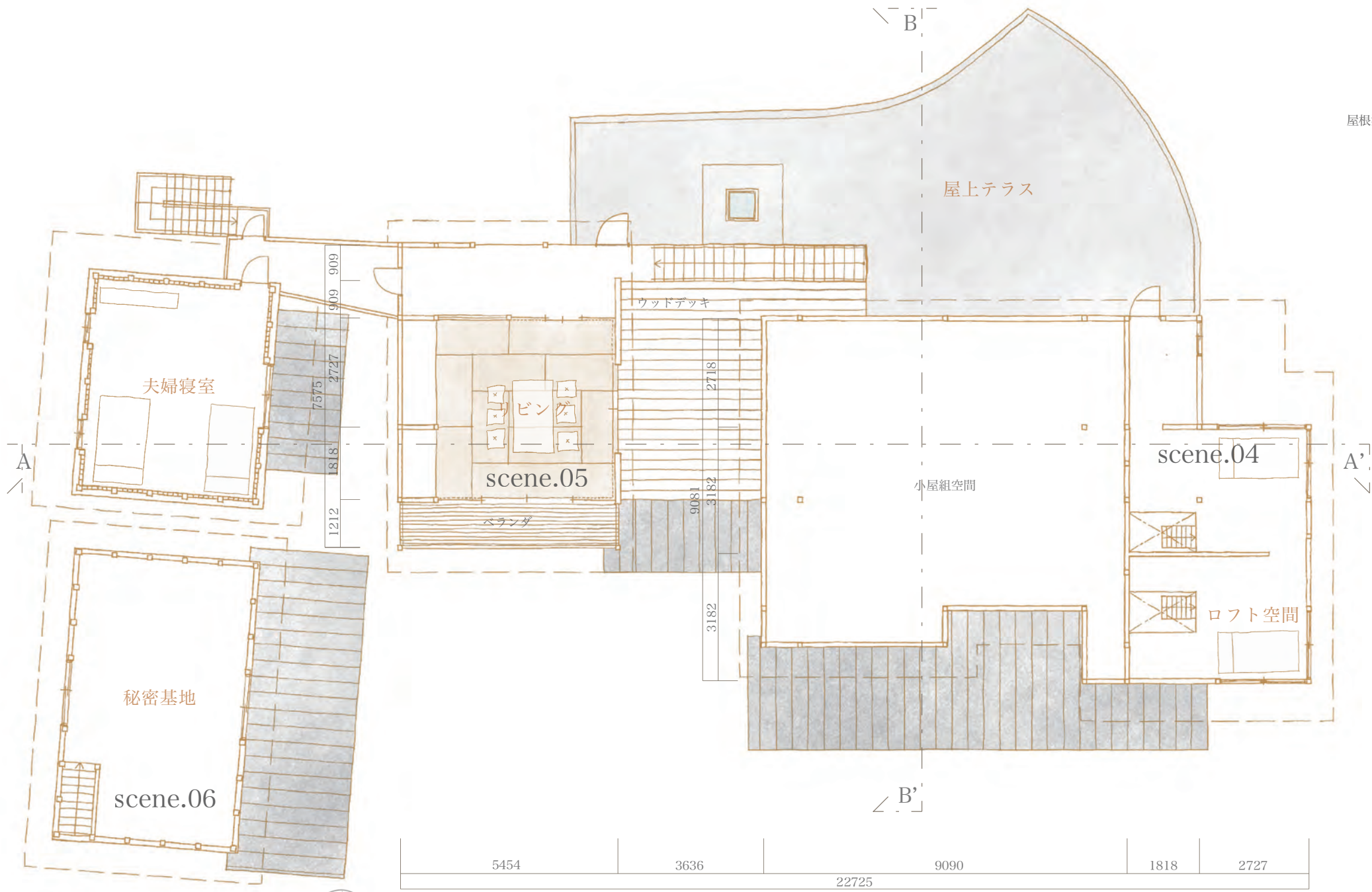


■揚屋により接続されて行く空間

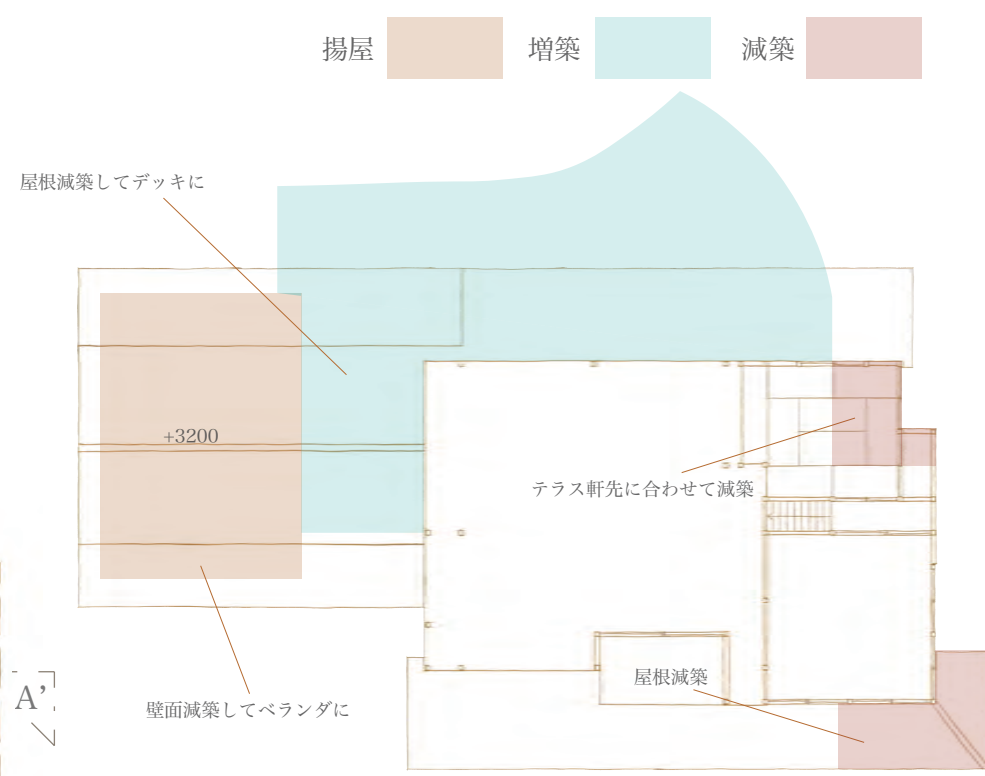


径の再定義により奥座敷の揚屋を行ったことで、続く水路跡の可視化と共に既存の座敷、中の間を活用した夫婦が営む寺子屋空間と北側土蔵 1 階を活用した歴史ギャラリーの展示空間が東西で接続される。さらに南側に広がる庭園と北側の庭園空間も接続され、様々な場が交差するシークエンスの豊かな来客空間を創り出す。





再生後 2 階平面図 S1/125

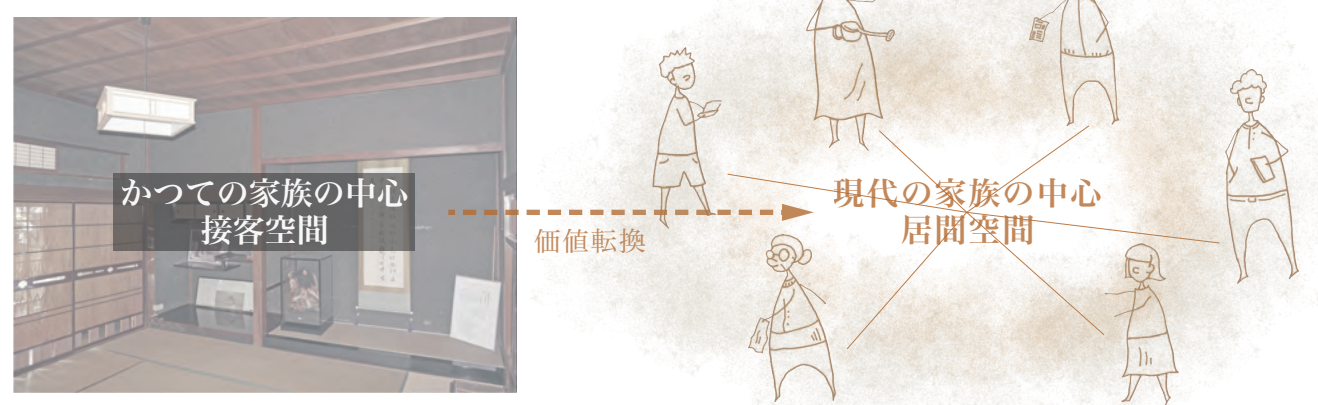


再生前 2 階平面図 S1/200

■再生後主屋の面積表

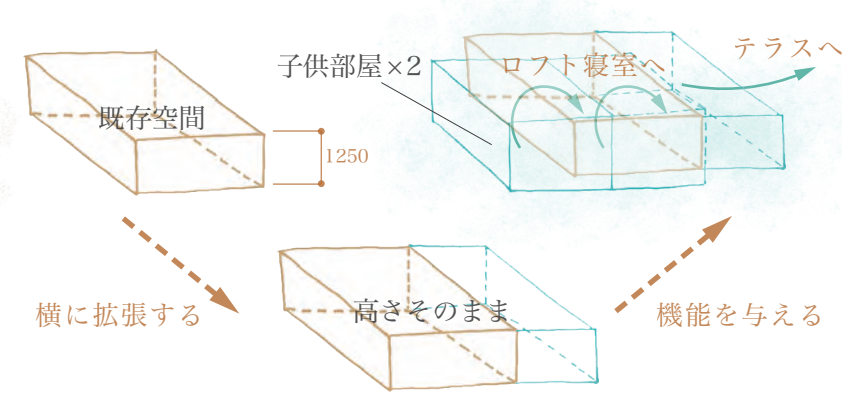
1 階主要諸室面積			1 階合計面積 188.24 ㎡
子供図書館-44 ㎡	寺子屋-44 ㎡	子供部屋 1-10 ㎡	延床合計面積
祖父母寝室-10 ㎡	事務所-14 ㎡	子供部屋 2-10 ㎡	
2 階主要施設面積			256.79 ㎡
リビング-25 ㎡	秘密基地-33 ㎡	屋上デッキ-22 ㎡	2 階合計面積 68.55 ㎡
ロフト空間-34 ㎡	夫婦寝室-25 ㎡	ベランダ-7 ㎡	

■現代への奥座敷の価値転換



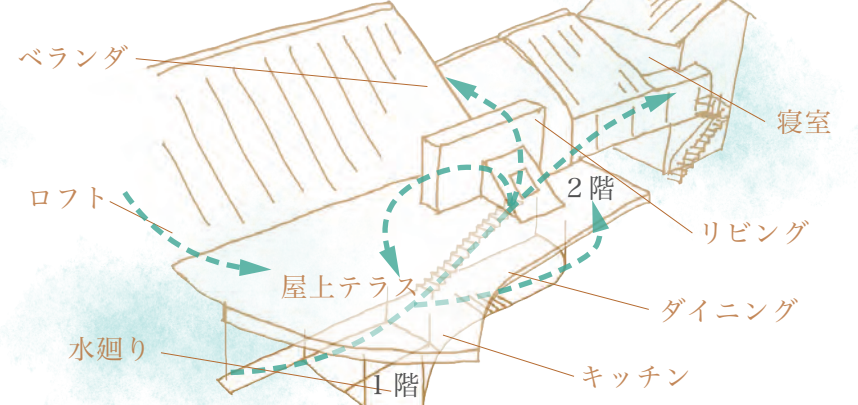
2 階レベルにまで持ち上げられた奥座敷はかつての家族において最も大切な空間であった。その空間を現代の家族における最も大切な空間である 3 世代が交流出来る居間へと価値転換を行う。そして下に生まれたかつての接客空間の履歴は現代の来客用玄関として位置付ける。

■既存改修の産物を面白がる



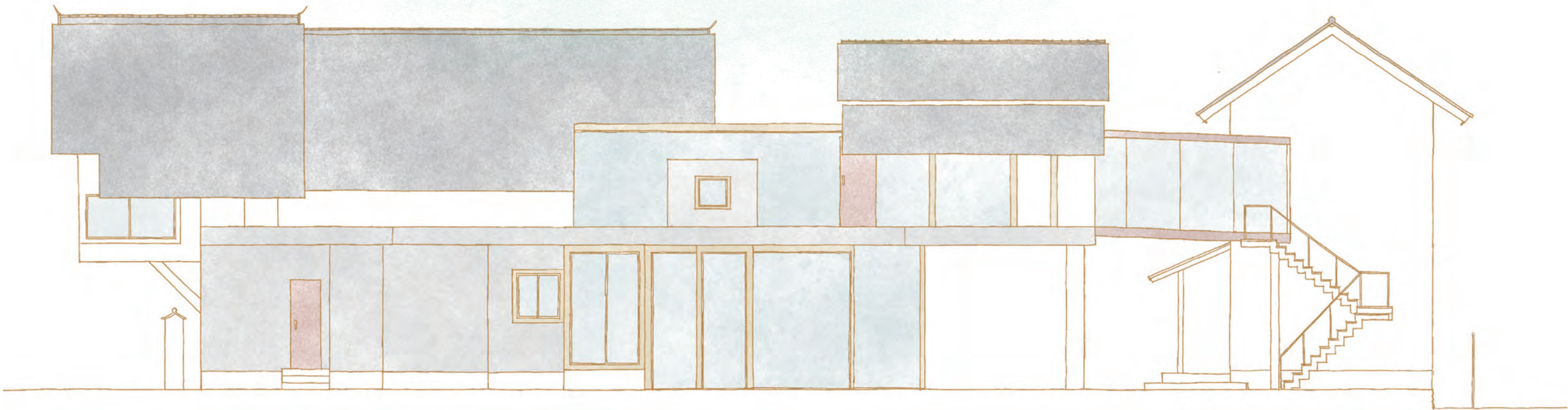
民家再生においてその建物が経てきた歴史のどこを尊重して価値を見出すかは重要な視点である。私は改修を繰り返したファサード部に出来た不思議な高さの空間を面白がりたい。

■現代的な住まいとの融合

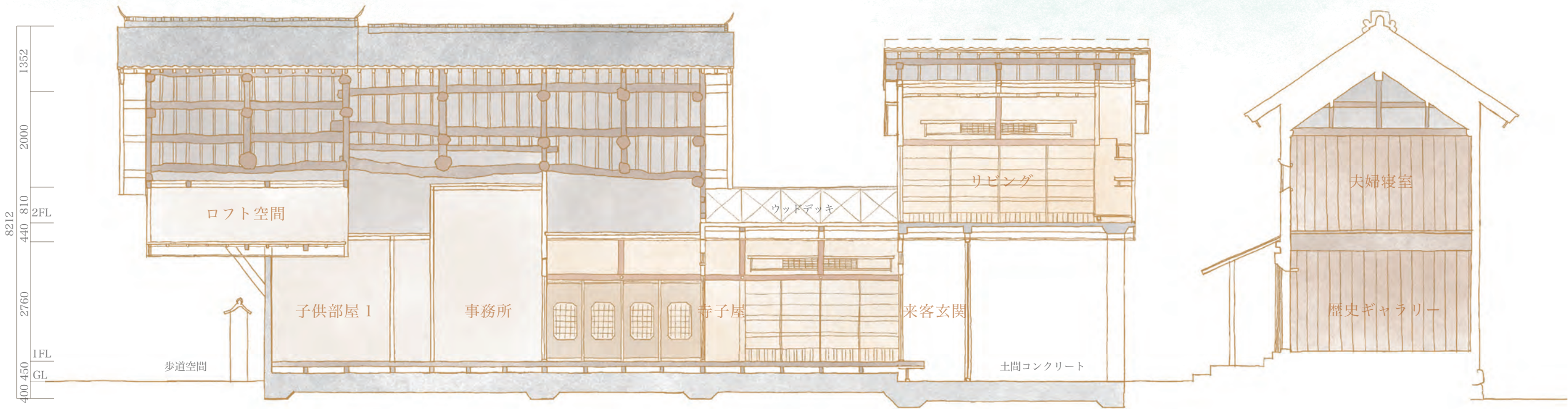


現代住まいの生活様式は旧越家住宅には見られない、立体的な自由な展開が見られる。揚屋された奥座敷に伴って、そんな現代の住まいの生活様式との立体的な融合を図る。





北側立面図 S1/100



A-A' 断面図 S1/100





東側立面図 S1/100



B-B' 断面図 S1/100

ディテールのスケッチ

